

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長(表1, 表2, 図1, 図2)

- ① 平成24年度の男子の身長(全国平均値。以下同じ。)は、6歳、7歳、13歳及び16歳で前年度の同年齢より低くなっている。また、9歳、10歳、12歳及び15歳で前年度より高くなっている。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。
- 女子の身長は、9歳、10歳及び14歳で前年度の同年齢より低くなっている。また、15歳で前年度より高くなっている。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。
- ② 平成24年度の身長を親の世代(30年前の昭和57年度の数値。以下同じ。)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で2.6cm、女子では10歳で1.8cmそれぞれ高くなっている。
- ③ なお、男子、女子共に昭和23年度以降、伸びる傾向にあったが、平成9年度から平成13年度あたりにピークを迎え、その後概ね横ばい傾向となっている。

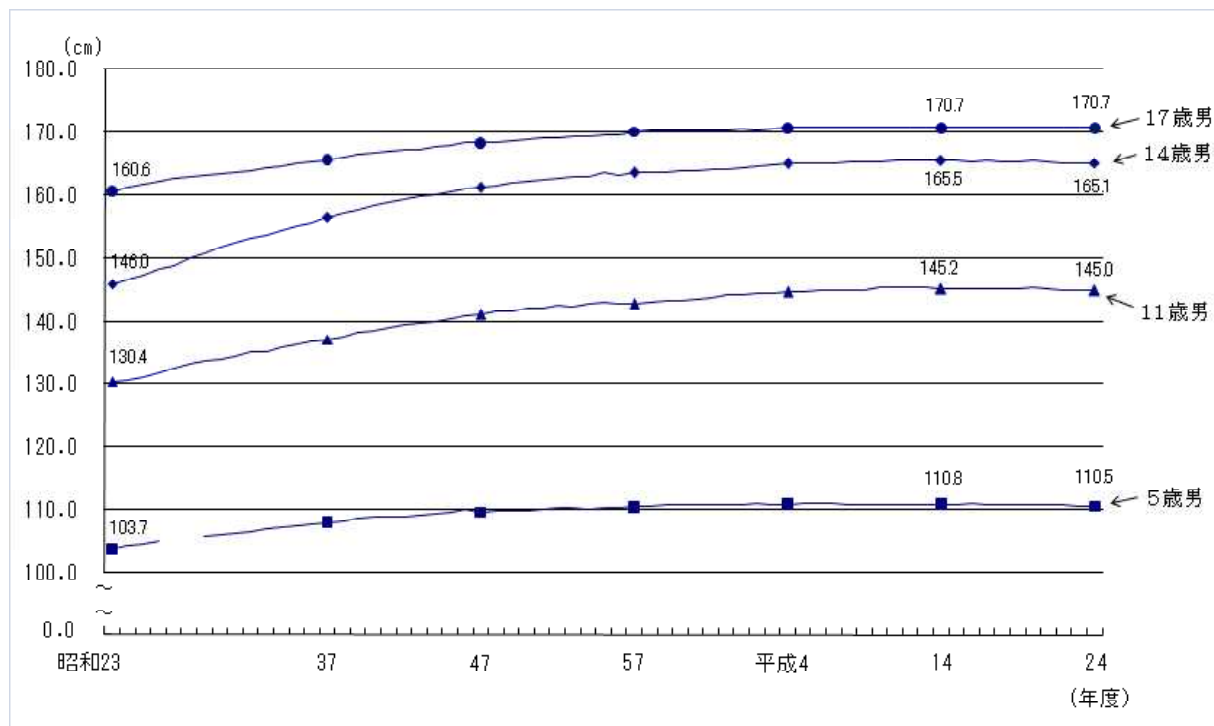
表1 年齢別 身長の平均値

区 分		平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B(親の世代)	差 A-B	
男	幼稚園 5歳	110.5	110.5	110.4	0.1	
	小学校	6歳	116.5	116.6	115.9	0.6
		7歳	122.4	122.6	121.5	0.9
		8歳	128.2	128.2	127.0	1.2
		9歳	133.6	133.5	132.2	1.4
		10歳	138.9	138.8	137.3	1.6
	中学校	11歳	145.0	145.0	142.8	2.2
		12歳	152.4	152.3	149.8	2.6
		13歳	159.5	159.6	157.3	2.2
	高等学校	14歳	165.1	165.1	163.6	1.5
		15歳	168.4	168.3	167.1	1.3
		16歳	169.8	169.9	169.2	0.6
		17歳	170.7	170.7	170.1	0.6
	女	幼稚園 5歳	109.5	109.5	109.6	△ 0.1
小学校		6歳	115.6	115.6	115.2	0.4
		7歳	121.6	121.6	120.8	0.8
		8歳	127.4	127.4	126.3	1.1
		9歳	133.4	133.5	132.0	1.4
		10歳	140.1	140.2	138.3	1.8
中学校		11歳	146.7	146.7	145.0	1.7
		12歳	151.9	151.9	150.6	1.3
		13歳	155.0	155.0	154.2	0.8
高等学校		14歳	156.5	156.6	156.0	0.5
		15歳	157.2	157.1	156.6	0.6
		16歳	157.6	157.6	157.3	0.3
		17歳	158.0	158.0	157.3	0.7

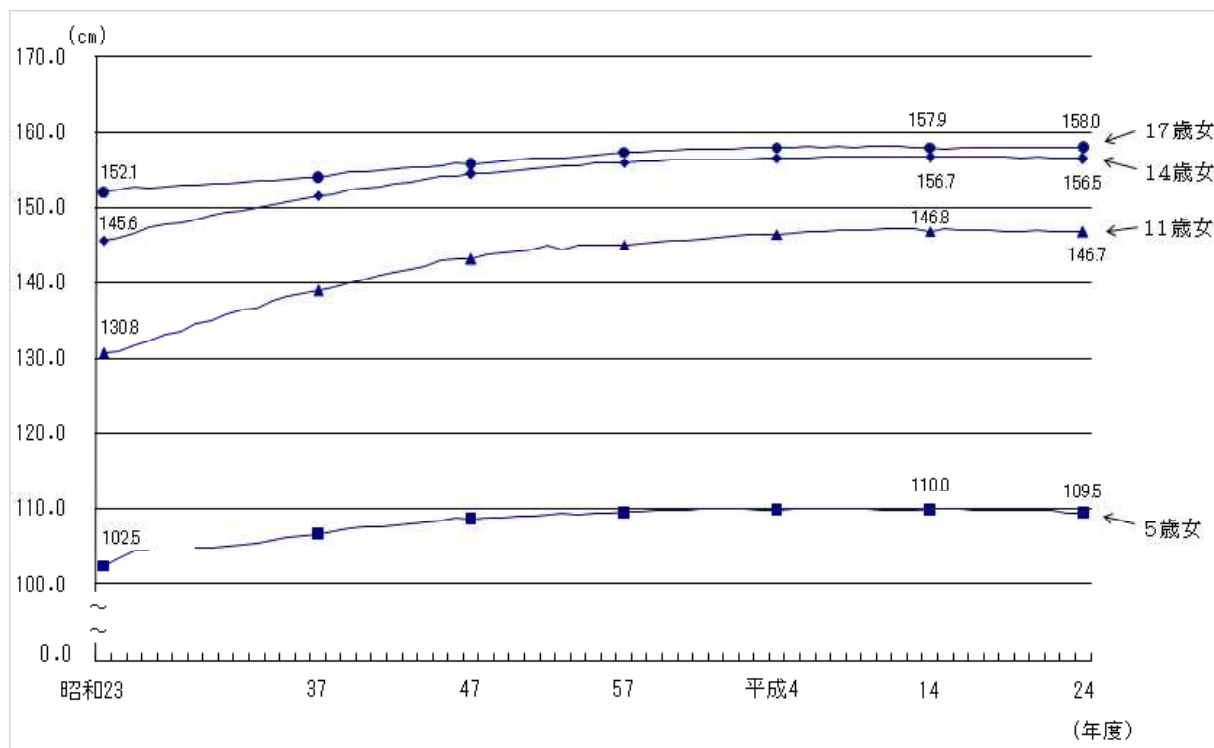
(注) 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

図1 身長の平均値の推移

○男子



○女子



(注) 5歳については、昭和27年度及び昭和28年度は、調査していない。

④ 17歳（平成6年度生まれ）の年間発育量をみると，男子では11歳時及び12歳時に発育量が著しくなっており，11歳時に最大の発育量を示している。

女子では，9歳時及び10歳時に発育量が著しくなっており，10歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は，女子のほうが男子に比べ1歳早くなっている。

また，この発育量を親の世代と比較すると，男子では発育量が最大となる時期は1歳早い11歳時となっており，5歳，6歳，7歳，9歳，10歳及び11歳の各歳時で親の世代を上回っている。

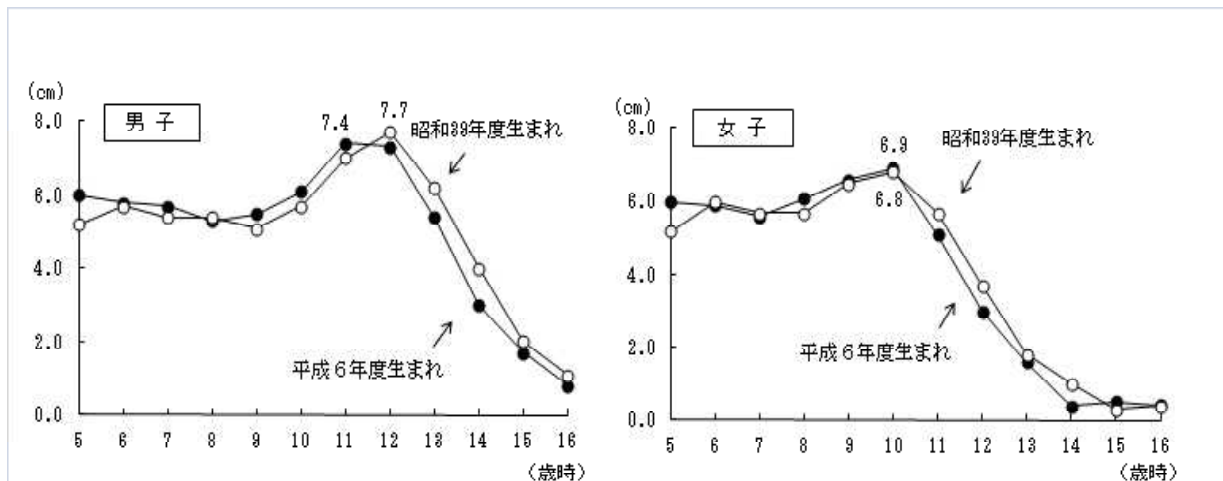
女子については，発育量が最大となる時期は親の世代と同じ10歳時となっており，5歳，8歳，9歳，10歳及び15歳の各歳時で親の世代を上回っている。

表2 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）(cm)

区 分	男 子		女 子	
	平成6年度生まれ (平成24年度17歳)	昭和39年度生まれ (親の世代の17歳)	平成6年度生まれ (平成24年度17歳)	昭和39年度生まれ (親の世代の17歳)
幼稚園 5歳時	6.0	5.2	6.0	5.2
小学校	6歳時	5.8	5.9	6.0
	7	5.7	5.6	5.7
	8	5.3	5.4	6.1
	9	5.5	5.1	6.6
	10	6.1	5.7	6.9
	11	7.4	7.0	5.1
中学校	12歳時	7.3	7.7	3.0
	13	5.4	6.2	1.6
	14	3.0	4.0	0.4
高等学校	15歳時	1.7	2.0	0.5
	16	0.8	1.1	0.4

(注) 1. 年間発育量とは，例えば，平成6年度生まれ（平成24年度17歳）の「5歳時」の年間発育量は，平成13年度調査6歳の者の身長から平成12年度調査5歳の者の身長を引いた数値である。
2. 網掛け部分は，最大の年間発育量を示す。

図2 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）



(2) 体重(表3, 表4, 図3, 図4)

① 平成24年度の男子の体重(全国平均値。以下同じ。)は、15歳、16歳及び17歳の各歳で前年度の同年齢より減少している。また、8歳から12歳で、前年度の同年齢より増加している。その他の年齢では、前年度と同じ数値となっている。

女子の体重は、8歳のみ前年度の同年齢より減少しており、6歳、7歳、9歳、11歳から13歳及び15歳から17歳で前年度の同年齢より増加している。その他の年齢では前年度と同じ数値となっている。

② 平成24年度の体重を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で2.6kg、女子では11歳で1.5kgそれぞれ重くなっている。

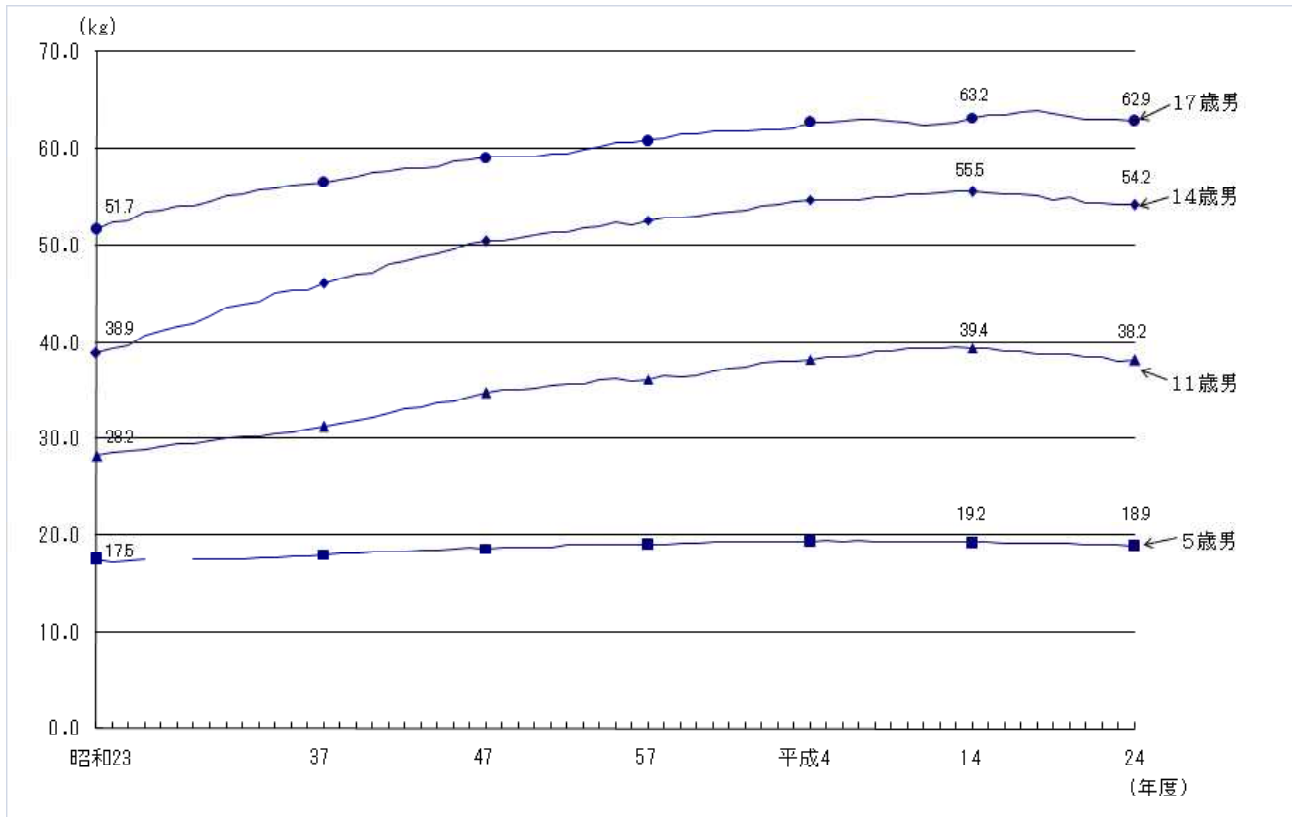
③ なお、男子、女子共に昭和23年度以降、増加傾向にあったが、平成10年度から平成15年度あたりにピークを迎え、その後減少傾向となっている。

表3 年齢別 体重の平均値

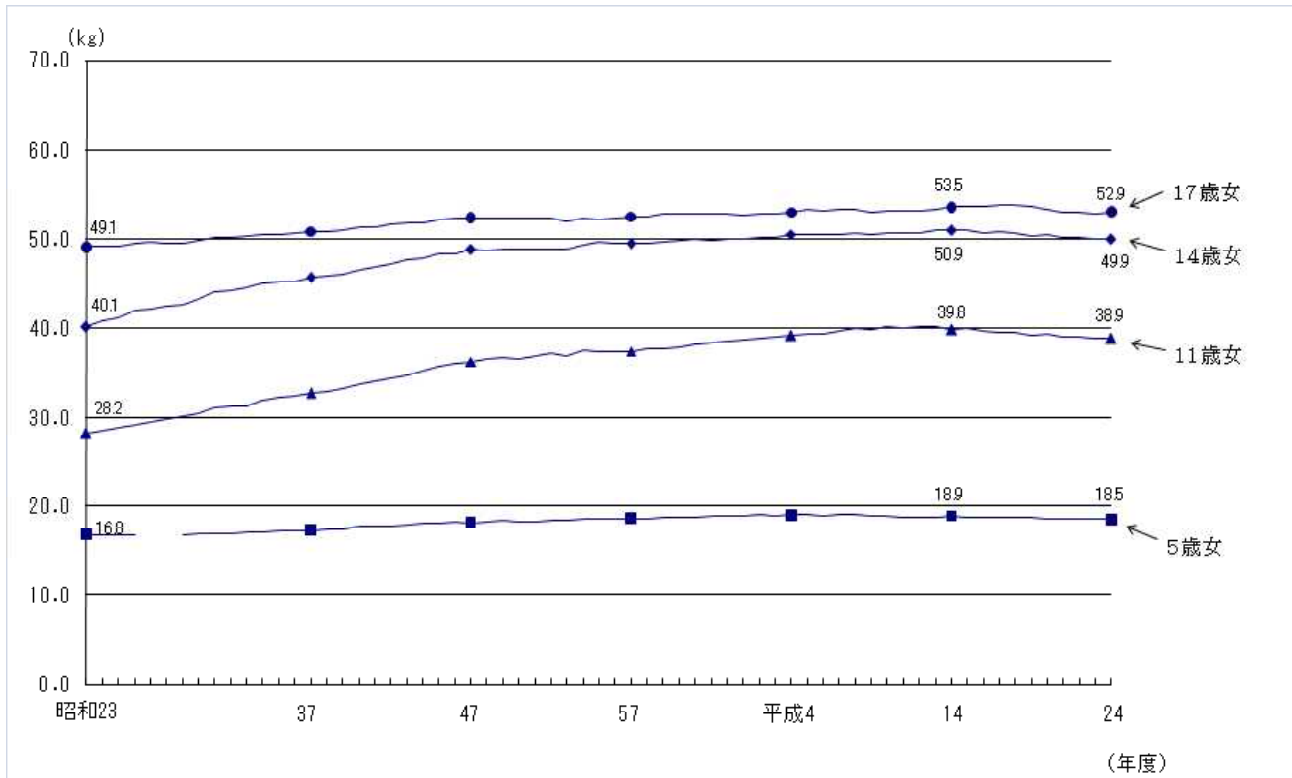
区 分		平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B(親の世代)	差 A-B		
男	幼稚園	5歳	18.9	18.9	19.0	△ 0.1	
		小学校	6歳	21.3	21.3	20.9	0.4
	7歳		24.0	24.0	23.3	0.7	
	8歳		27.1	27.0	26.1	1.0	
	9歳		30.5	30.3	29.1	1.4	
	10歳		34.0	33.8	32.3	1.7	
	中学校	11歳	38.2	38.0	36.1	2.1	
		12歳	44.0	43.8	41.4	2.6	
		13歳	49.0	49.0	47.1	1.9	
	高等学校	14歳	54.2	54.2	52.6	1.6	
		15歳	15歳	59.2	59.4	57.1	2.1
			16歳	61.1	61.3	59.4	1.7
		17歳	62.9	63.1	60.9	2.0	
	女	幼稚園	5歳	18.5	18.5	18.6	△ 0.1
			小学校	6歳	20.9	20.8	20.5
		7歳		23.5	23.4	22.8	0.7
		8歳		26.3	26.4	25.6	0.7
9歳		29.9		29.8	28.8	1.1	
10歳		34.0		34.0	32.6	1.4	
中学校		11歳	38.9	38.8	37.4	1.5	
		12歳	43.7	43.6	42.5	1.2	
		13歳	47.4	47.1	46.5	0.9	
高等学校		14歳	49.9	49.9	49.5	0.4	
		15歳	15歳	51.6	51.4	51.7	△ 0.1
			16歳	52.5	52.4	52.5	0.0
		17歳	52.9	52.8	52.4	0.5	

図3 体重の平均値の推移

○男子



○女子



(注) 5歳については、昭和27年度及び昭和28年度は、調査していない。

④ 17歳（平成6年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では11歳時から14歳時に発育量が著しくなっており、11歳時に最大の発育量を示している。

女子では、10歳時及び11歳時に発育量が著しくなっており、10歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を親の世代と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、1歳早い11歳時となっており、11歳以下の各歳時（6歳時を除く）及び14歳時で親の世代を上回っている。

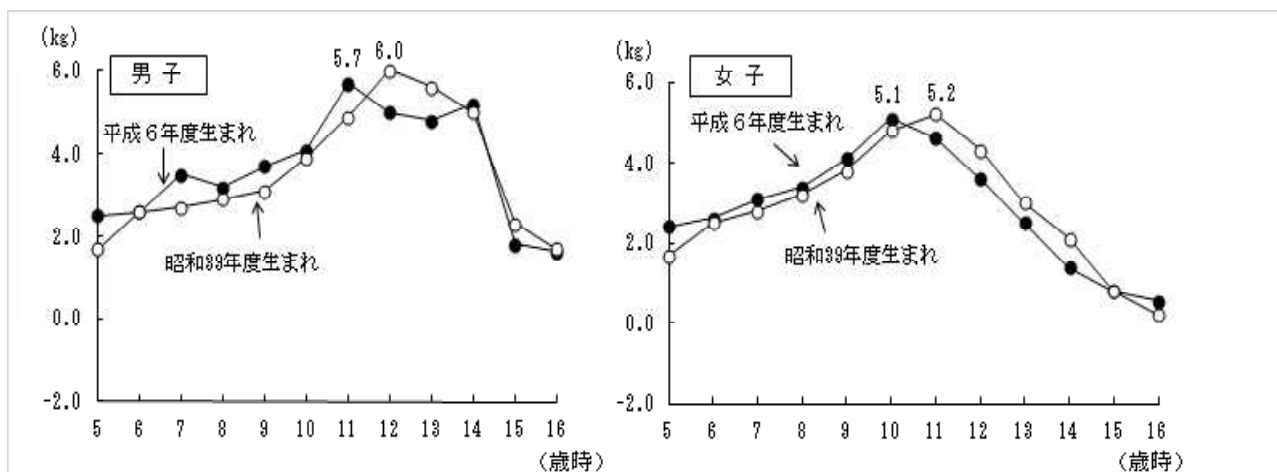
女子については、発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い10歳時となっており、10歳以下の各歳時及び16歳時で親の世代を上回っている。

表4 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（体重）
(kg)

区 分	男 子		女 子		
	平成6年度生まれ (平成24年度17歳)	昭和39年度生まれ (親の世代の17歳)	平成6年度生まれ (平成24年度17歳)	昭和39年度生まれ (親の世代の17歳)	
幼稚園 5歳時	2.5	1.7	2.4	1.7	
小学校	6歳時	2.6	2.6	2.6	2.5
	7	3.5	2.7	3.1	2.8
	8	3.2	2.9	3.4	3.2
	9	3.7	3.1	4.1	3.8
	10	4.1	3.9	5.1	4.8
	11	5.7	4.9	4.6	5.2
中学校	12歳時	5.0	6.0	3.6	4.3
	13	4.8	5.6	2.5	3.0
	14	5.2	5.0	1.4	2.1
高等学校	15歳時	1.8	2.3	0.8	0.8
	16	1.6	1.7	0.5	0.2

(注) 1. 年間発育量とは、例えば、平成6年度生まれ（平成24年度17歳）の「5歳時」の年間発育量は、平成13年度調査6歳の者の体重から平成12年度調査5歳の者の体重を引いた数値である。
2. 網掛け部分は、最大の年間発育量を示す。

図4 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（体重）



(3) 座高 (表5)

① 平成24年度の男子の座高 (全国平均値。以下同じ。) は、8歳、12歳及び14歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、5歳、6歳、7歳及び11歳で前年度より低くなっている。その他の年齢では前年度と同じ数値となっている。

女子の座高は、7歳、12歳及び16歳で前年度の同年齢より高くなっている。また、9歳及び10歳で前年度より低くなっている。その他の年齢では前年度と同じ数値となっている。

② 平成24年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で1.5cm、女子では11歳で1.0cmそれぞれ高くなっている。

表5 年齢別 座高の平均値

区 分		平成24年度 A	平成23年度	昭和57年度 B (親の世代)	差 A-B		
男	幼稚園	5歳	61.9	62.0	62.5	△ 0.6	
		6歳	64.8	64.9	65.0	△ 0.2	
	小学校	7歳	67.6	67.7	67.5	0.1	
		8歳	70.3	70.2	69.9	0.4	
		9歳	72.6	72.6	72.1	0.5	
		10歳	74.9	74.9	74.2	0.7	
		11歳	77.5	77.6	76.5	1.0	
	中学校	12歳	81.3	81.2	79.8	1.5	
		13歳	84.9	84.9	83.5	1.4	
		14歳	88.2	88.1	86.8	1.4	
	高等学校	15歳	90.3	90.3	89.1	1.2	
		16歳	91.3	91.3	90.2	1.1	
		17歳	91.9	91.9	90.8	1.1	
	女	幼稚園	5歳	61.4	61.4	62.0	△ 0.6
			6歳	64.4	64.4	64.5	△ 0.1
		小学校	7歳	67.3	67.2	67.1	0.2
8歳			69.9	69.9	69.5	0.4	
9歳			72.6	72.7	72.0	0.6	
10歳			75.8	75.9	74.9	0.9	
11歳			79.2	79.2	78.2	1.0	
中学校		12歳	82.2	82.1	81.4	0.8	
		13歳	83.9	83.9	83.3	0.6	
		14歳	84.9	84.9	84.3	0.6	
高等学校		15歳	85.4	85.4	85.0	0.4	
		16歳	85.7	85.6	85.1	0.6	
		17歳	85.8	85.8	85.0	0.8	

* (参考) 身長に占める足の長さ (身長から座高を引いたもの) の割合

身長に占める足の長さ (身長から座高を引いたもの) の割合を親の世代と比較すると、男子では13歳から17歳、女子では11歳、13歳、14歳、16歳及び17歳で小さくなっている。

区 分		(%)												
		幼稚園	小 学 校					中 学 校			高 等 学 校			
		5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男	平成24年度 A	44.0	44.4	44.8	45.2	45.7	46.1	46.6	46.7	46.8	46.6	46.4	46.2	46.2
	昭和57年度 (親の世代) B	43.4	43.9	44.4	45.0	45.5	46.0	46.4	46.7	46.9	46.9	46.7	46.7	46.6
	差 A-B	0.6	0.5	0.4	0.2	0.2	0.1	0.2	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.4
女	平成24年度 A	43.9	44.3	44.7	45.1	45.6	45.9	46.0	45.9	45.9	45.8	45.7	45.6	45.7
	昭和57年度 (親の世代) B	43.4	44.0	44.5	45.0	45.5	45.8	46.1	45.9	46.0	46.0	45.7	45.9	46.0
	差 A-B	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	△ 0.1	0.0	△ 0.1	△ 0.2	0.0	△ 0.3	△ 0.3

(注) △は減少を示す。

(4) 世代間比較（身長，体重，座高）（表6）

子世代，父母世代（30年前），祖父母世代（55年前）を比較すると，身長・体重とも概ね増加していることがわかる。全体的には祖父母世代に比べて父母世代が大きく増加している。父母世代と子世代の間でも増加しているが，祖父母世代に比べると増加の割合は小さい。

なお，父母世代と子世代で見ると，成長の途中段階では世代間の差が大きくなっているが，成長が完成する17歳ではその差はほとんどない。

表6 世代間比較（身長・体重・座高）

8歳（小学校3年生）

	平均身長 (cm)		平均体重 (kg)		平均座高 (cm)		平均身長－平均座高 (cm)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
祖父母世代（昭和32年度） （昭和23年度生まれ）	121.0	120.1	22.8	22.4	67.8	67.4	53.2	52.7
父母世代（昭和57年度） （昭和48年度生まれ）	127.0	126.3	26.1	25.6	69.9	69.5	57.1	56.8
子世代（平成24年度） （平成15年度生まれ）	128.2	127.4	27.1	26.3	70.3	69.9	57.9	57.5

11歳（小学校6年生）

	平均身長 (cm)		平均体重 (kg)		平均座高 (cm)		平均身長－平均座高 (cm)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
祖父母世代（昭和32年度） （昭和20年度生まれ）	135.0	136.3	30.2	31.3	73.6	74.8	61.4	61.5
父母世代（昭和57年度） （昭和45年度生まれ）	142.8	145.0	36.1	37.4	76.5	78.2	66.3	66.8
子世代（平成24年度） （平成12年度生まれ）	145.0	146.7	38.2	38.9	77.5	79.2	67.5	67.5

14歳（中学校3年生）

	平均身長 (cm)		平均体重 (kg)		平均座高 (cm)		平均身長－平均座高 (cm)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
祖父母世代（昭和32年度） （昭和17年度生まれ）	153.0	149.6	43.8	44.3	82.7	82.5	70.3	67.1
父母世代（昭和57年度） （昭和42年度生まれ）	163.6	156.0	52.6	49.5	86.8	84.3	76.8	71.7
子世代（平成24年度） （平成9年度生まれ）	165.1	156.5	54.2	49.9	88.2	84.9	76.9	71.6

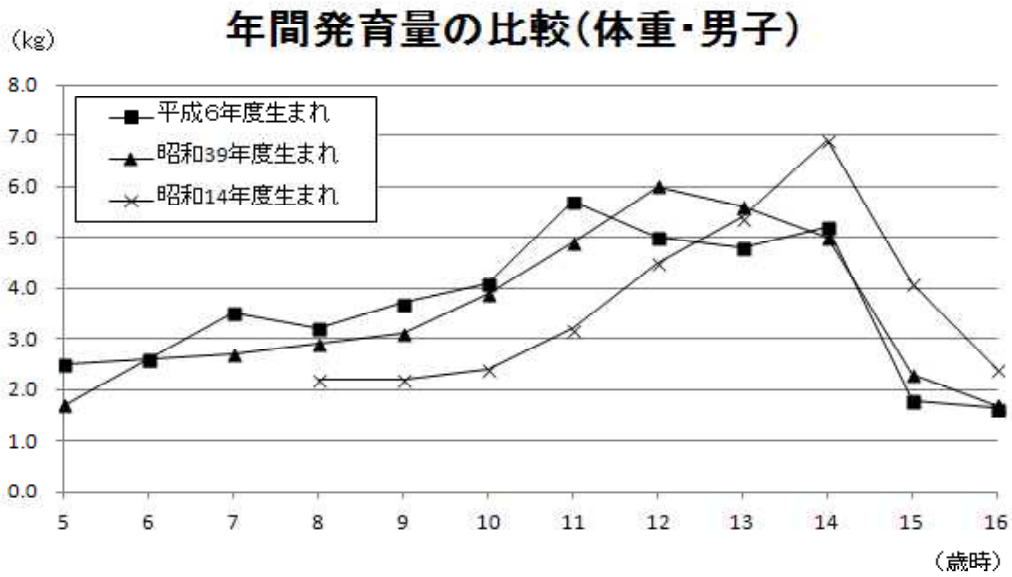
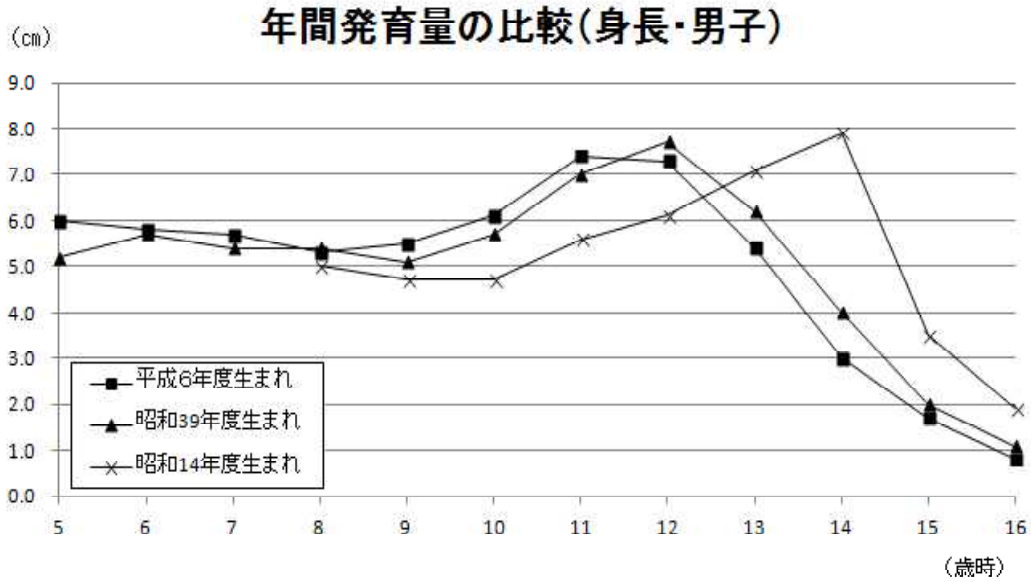
17歳（高校3年生）

	平均身長 (cm)		平均体重 (kg)		平均座高 (cm)		平均身長－平均座高 (cm)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
祖父母世代（昭和32年度） （昭和14年度生まれ）	163.9	153.3	55.3	50.1	89.4	84.6	74.5	68.7
父母世代（昭和57年度） （昭和39年度生まれ）	170.1	157.3	60.9	52.4	90.8	85.0	79.3	72.3
子世代（平成24年度） （平成6年度生まれ）	170.7	158.0	62.9	52.9	91.9	85.8	78.8	72.2

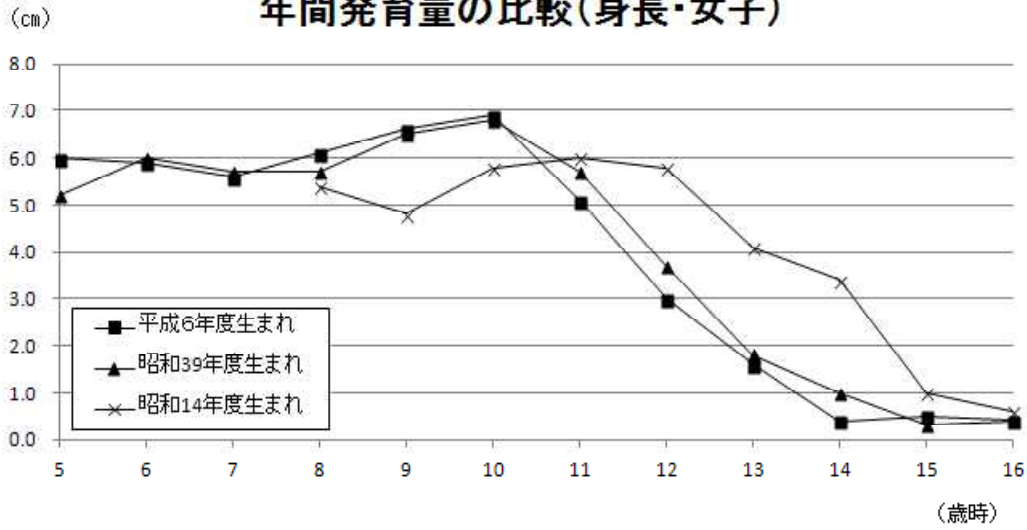
(5) 年間発育量の比較(身長, 体重) (図5)

男女ともに身長, 体重のいずれも, 現代に近いほど早期に増加している。

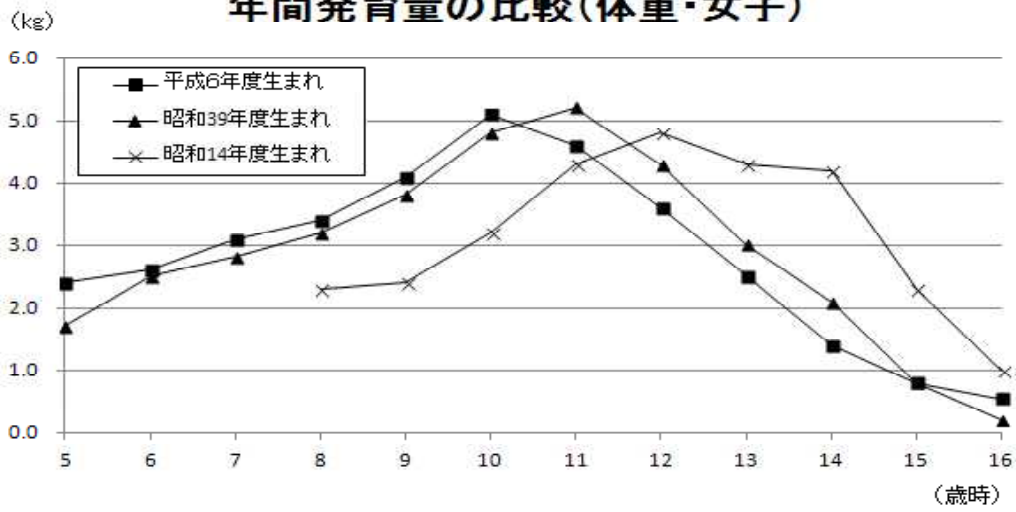
図5 年間発育量の世代間比較



年間発育量の比較(身長・女子)



年間発育量の比較(体重・女子)



※昭和14年度生まれについては、戦争のためデータが一部欠損している。

2 健康状態

(1) 疾病・異常の被患率等別状況（表7）

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園、小学校においては「むし歯（う歯）」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満の者」の順となっている。

中学校、高等学校においては、「裸眼視力1.0未満の者」が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

表7 疾病・異常の被患率等

区 分	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
60%以上～70%未満				裸眼視力1.0未満の者
50～60		むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者	むし歯（う歯）
40～50	むし歯（う歯）		むし歯（う歯）	
30～40		裸眼視力1.0未満の者		
20～30	裸眼視力1.0未満の者			
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	
1～10	8～10			鼻・副鼻腔疾患
	6～8			
	4～6		眼の疾病・異常 耳疾患 歯列・咬合 ぜん息	歯垢の状態 歯肉の状態 歯列・咬合
	2～4	鼻・副鼻腔疾患 歯列・咬合 アトピー性皮膚炎 耳疾患 ぜん息	アトピー性皮膚炎 歯垢の状態 心電図異常 歯肉の状態	耳疾患 歯・口腔のその他の疾病・異常 心電図異常 ぜん息 蛋白検出の者 アトピー性皮膚炎
	1～2	眼の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 その他の皮膚疾患	栄養状態 口腔咽喉頭疾患・異常	栄養状態 ぜん息 耳疾患
0.1～1	0.5～1	歯垢の状態 蛋白検出の者	蛋白検出の者 心臓の疾病・異常 難聴	心臓の疾病・異常 せき柱・胸郭 口腔咽喉頭疾患・異常
	0.1～0.5	言語障害 心臓の疾病・異常 歯肉の状態 栄養状態 せき柱・胸郭	その他の皮膚疾患 せき柱・胸郭 言語障害 寄生虫卵保有 腎臓疾患 顎関節	顎関節 難聴 その他の皮膚疾患 腎臓疾患 尿糖検出の者
0.1%未満	顎関節 寄生虫卵保有 腎臓疾患	尿糖検出の者 結核	言語障害 結核	言語障害 結核

- (注) 1. 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
 2. 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者等である。
 3. 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
 4. 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

(2) 主な疾病・異常等の推移

疾病・異常等のうち主なものについて、その推移をみると表8のとおりである。

表8 主な疾病・異常等の推移総括表

		(%)								
区 分		裸 眼 視 力 1.0 未 満	耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患 ・ 異 常	む し 歯 (う 歯)	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出	寄 生 虫 卵 保 有	ぜ ん 息
幼稚園	平成14年度	26.54	2.02	3.46	2.41	61.46	…	0.37	0.41	1.26
	20	28.93	2.80	3.78	1.74	50.25	…	0.49	0.12	2.65
	21	24.87	2.91	3.98	1.96	46.50	…	0.62	0.15	2.15
	22	26.43	3.34	3.39	1.86	46.07	…	1.01	0.09	2.74
	23	25.48	2.54	4.37	2.38	42.95	…	0.76	0.12	2.79
	24	27.52	2.60	3.50	1.46	42.86	…	0.58	0.07	2.33
小学校	平成14年度	25.67	4.31	11.21	2.21	73.85	2.17	0.58	0.94	2.67
	20	29.87	5.23	11.86	1.75	63.79	2.67	0.69	0.33	3.89
	21	29.71	5.47	12.57	1.63	61.79	2.51	0.81	0.30	3.99
	22	29.91	5.43	11.66	1.52	59.63	2.48	0.75	0.27	4.19
	23	29.91	5.52	12.50	1.51	57.20	2.51	0.75	0.22	4.34
	24	30.68	5.39	12.19	1.27	55.76	2.30	0.75	0.20	4.22
中学校	平成14年度	49.04	2.57	9.43	1.29	71.24	3.13	2.07	…	2.18
	20	52.60	3.55	10.82	1.10	56.00	3.45	2.49	…	3.00
	21	52.54	3.35	10.83	0.81	52.88	3.28	2.46	…	2.96
	22	52.73	3.56	10.67	0.82	50.60	3.36	2.61	…	3.02
	23	51.59	3.28	11.75	0.80	48.31	3.36	2.60	…	2.83
	24	54.38	3.62	11.39	0.70	45.67	3.32	2.50	…	2.95
高等学校	平成14年度	63.84	1.68	7.66	0.83	82.25	3.12	1.82	…	1.36
	20	57.98	2.02	8.81	0.59	65.48	3.10	2.82	…	1.82
	21	59.37	2.01	9.61	0.68	62.18	3.33	2.88	…	1.88
	22	55.64	1.61	8.45	0.58	59.95	3.16	2.84	…	2.08
	23	60.93	1.64	8.81	0.58	58.46	3.13	2.92	…	1.94
	24	64.47	1.88	8.63	0.46	57.60	3.02	2.67	…	1.91

(注) 1. 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
2. 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

○ 「裸眼視力」（表9，表10）

- ① 平成24年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、幼稚園27.52%，小学校30.68%，中学校54.38%，高等学校64.47%となっており，前年度と比較すると，全ての学校段階で増加している。また，「裸眼視力0.3未満の者」の割合は，幼稚園0.50%，小学校8.58%，中学校27.10%，高等学校36.74%となっており，前年度と比較すると，幼稚園で減少，小学校，中学校及び高等学校で増加している。
- ② 平成24年度より，視力非矯正者（眼鏡やコンタクトレンズを使用していない者）と視力矯正者とに分けて調査したところ，視力非矯正者の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は，幼稚園26.58%，小学校22.74%，中学校26.62%，高等学校28.86%となっており，視力矯正者の「裸眼視力1.0未満」の割合は，幼稚園0.94%，小学校7.93%，中学校27.77%，高等学校35.62%となっている。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

(%)

区 分		昭和54年度	昭和57	平成4	平成14	20	21	22	23	24
幼稚園	計	16.47	16.64	20.16	26.54	28.93	24.87	26.43	25.48	27.52
	1.0未満0.7以上	12.21	12.76	14.36	19.28	22.03	18.81	19.83	19.09	20.86
	0.7未満0.3以上	3.91	3.45	5.17	6.82	6.11	5.45	5.81	5.82	6.15
	0.3未満	0.35	0.43	0.63	0.44	0.78	0.61	0.79	0.57	0.50
小学校	計	17.91	18.23	22.50	25.67	29.87	29.71	29.91	29.91	30.68
	1.0未満0.7以上	9.47	9.08	9.18	10.48	11.23	10.92	10.88	10.62	10.68
	0.7未満0.3以上	5.77	6.09	8.27	9.70	11.60	11.51	11.49	11.34	11.41
	0.3未満	2.67	3.07	5.05	5.49	7.05	7.27	7.55	7.95	8.58
中学校	計	35.19	36.39	45.56	49.04	52.60	52.54	52.73	51.59	54.38
	1.0未満0.7以上	9.65	10.69	10.27	11.59	12.38	12.54	12.07	11.81	10.78
	0.7未満0.3以上	12.47	12.18	15.10	16.63	17.80	18.03	18.41	17.54	16.49
	0.3未満	13.06	13.53	20.19	20.82	22.42	21.97	22.25	22.25	27.10
高等学校	計	53.02	53.49	59.20	63.84	57.98	59.37	55.64	60.93	64.47
	1.0未満0.7以上	11.12	11.45	10.45	13.58	12.55	13.59	12.98	11.44	10.78
	0.7未満0.3以上	15.61	15.81	16.58	16.63	17.07	18.11	16.75	16.13	16.95
	0.3未満	26.29	26.23	32.18	33.63	28.36	27.68	25.90	33.36	36.74

(注) 四捨五入しているため計と内訳が一致しない場合がある。
以下の各表において同じ。

表10 学校種別 視力非矯正者と視力矯正者の割合

(%)

区 分	計	視力非矯正者				視力矯正者			
		1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	1.0以上	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満
幼稚園	100.00	72.27	20.58	5.66	0.34	0.22	0.29	0.49	0.16
小学校	100.00	68.91	10.05	9.22	3.47	0.41	0.63	2.19	5.11
中学校	100.00	45.04	9.55	11.24	5.83	0.58	1.24	5.25	21.28
高等学校	100.00	34.48	9.68	11.53	7.65	1.05	1.10	5.43	29.09

(注) 低い方の視力の記載により計上している。

(例) 右眼が1.0、左眼が0.5の場合は、「0.7未満 0.3以上」に計上。

右眼が0.5、左眼が0.2の場合は、「0.3未満」に計上。

○ 「鼻・副鼻腔疾患」（表8）

平成24年度の「鼻・副鼻腔疾患」（蓄のう症，アレルギー性鼻炎等）の者の割合は，幼稚園3.50%，小学校12.19%，中学校11.39%，高等学校8.63%となっており，全ての学校段階で前年度より減少している。

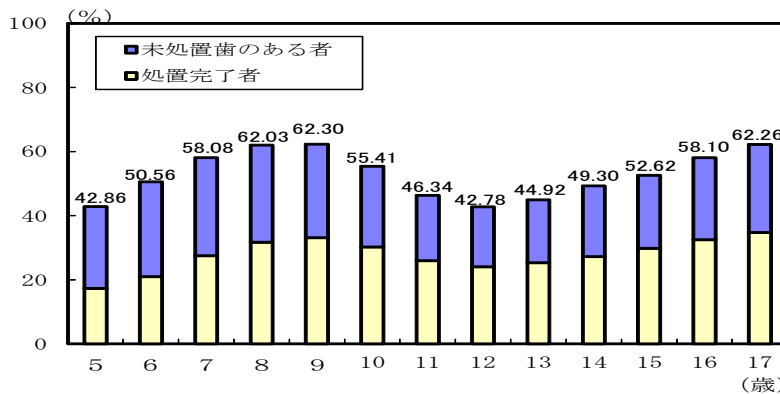
○ 「むし歯（う歯）」（表11，図6）

- ① 平成24年度の「むし歯」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は，幼稚園42.86%，小学校55.76%，中学校45.67%，高等学校57.60%となっており，全ての学校段階で前年度より減少している。
- ② 「むし歯」の者の割合の推移をみると，昭和50年代半ばをピークに以降は減少傾向にある。
- ③ 「むし歯」の者の割合を年齢別（図6）にみると，9歳が62.30%と最も高くなっている。また，処置完了者の割合は，8歳以降未処置歯のある者の割合を上回っている。

表11 むし歯（う歯）の者の割合の推移

区 分		昭和57年度	平成4	平成14	20	21	22	23	24
幼稚園	計	82.42	78.72	61.46	50.25	46.50	46.07	42.95	42.86
	処置完了者	15.71	28.44	24.06	20.34	18.77	18.36	16.91	17.31
	未処置歯のある者	66.71	50.28	37.40	29.91	27.72	27.71	26.04	25.55
小学校	計	93.06	89.09	73.85	63.79	61.79	59.63	57.20	55.76
	処置完了者	25.45	37.57	35.38	30.89	30.32	29.20	28.65	28.36
	未処置歯のある者	67.61	51.52	38.47	32.90	31.47	30.44	28.56	27.41
中学校	計	92.97	88.93	71.24	56.00	52.88	50.60	48.31	45.67
	処置完了者	36.82	42.65	40.12	30.36	28.79	28.02	26.75	25.55
	未処置歯のある者	56.15	46.28	31.12	25.64	24.09	22.58	21.56	20.12
高等学校	計	95.73	92.56	82.25	65.48	62.18	59.95	58.46	57.60
	処置完了者	34.96	46.34	48.45	35.99	34.73	34.21	32.24	32.34
	未処置歯のある者	60.77	46.22	33.80	29.49	27.45	25.74	26.22	25.26

図6 年齢別 むし歯（う歯）の者の割合等



(注) 10歳から12歳において割合が減少するのは，乳歯が生え替わることが影響していると考えられる。

○ 「12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数」（表12，図7）

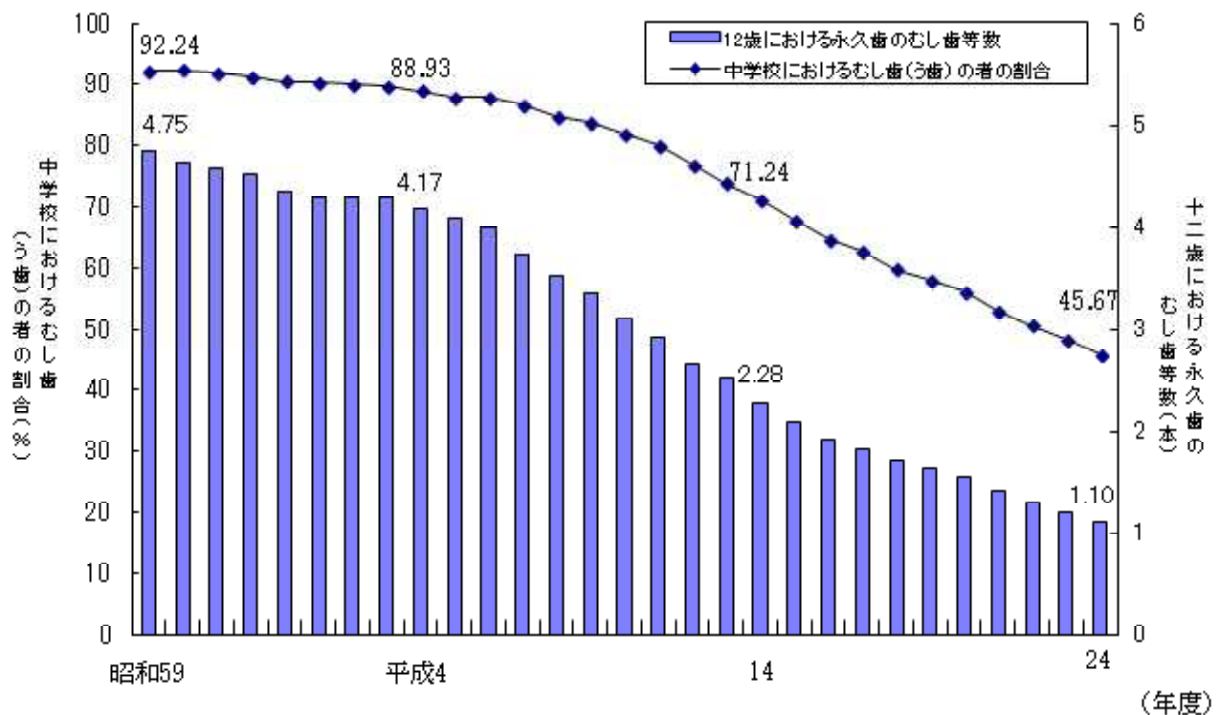
中学校1年（12歳）のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数（喪失歯及び処置歯数を含む）は，前年度より0.10本減少し，1.10本と過去最低となっている。

なお，昭和59年度（4.75本）以降減少している。

表12 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数

区 分		昭和59年度	平成4	平成14	20	21	22	23	24
計		4.75	4.17	2.28	1.54	1.40	1.29	1.20	1.10
喪失歯数		0.05	0.04	0.04	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02
むし歯 （う歯）	計	4.70	4.13	2.24	1.51	1.37	1.27	1.18	1.08
	処置歯数	3.35	3.00	1.55	0.96	0.87	0.81	0.76	0.69
	未処置歯数	1.35	1.13	0.69	0.55	0.49	0.46	0.41	0.39

図7 中学校におけるむし歯の被患率等の推移



○ 「心電図異常」（表 8） 6 歳， 12 歳 及び 15 歳 時のみ

平成 24 年度の「心電図異常」の割合は，小学校（6 歳）で 2.30%，中学校（12 歳）で 3.32%，高等学校（15 歳）で 3.02% となっており，前年度と比べると全ての学校段階で減少となっている。

○ 「寄生虫卵保有」（表 8） 5 歳 から 8 歳 時のみ

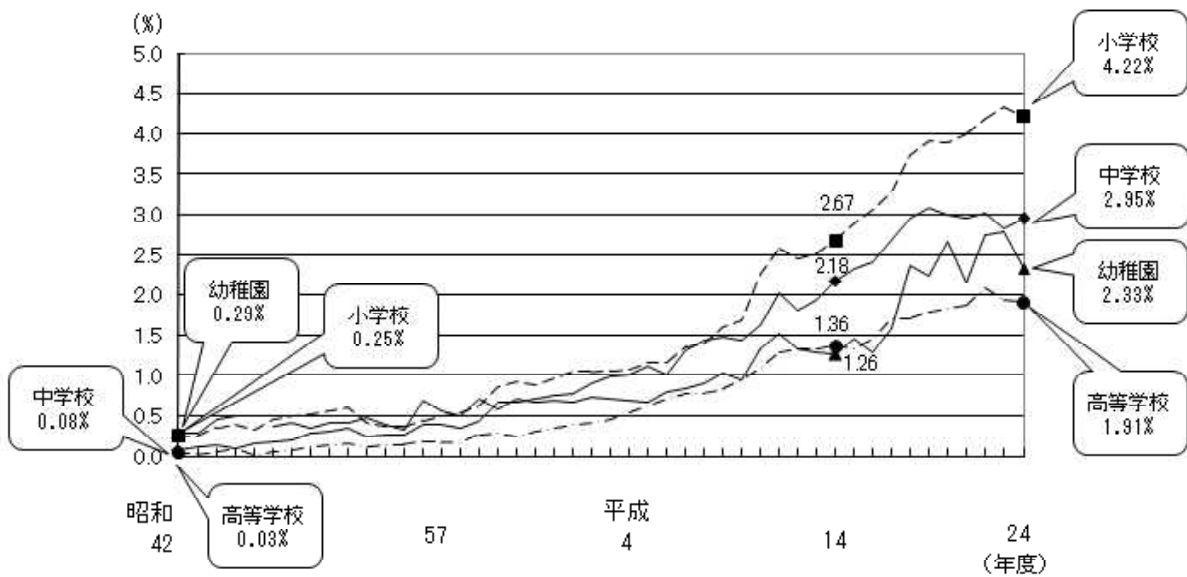
平成 24 年度の「寄生虫卵保有」の割合は，幼稚園で 0.07%，小学校で 0.20% となっており，前年度と比較すると幼稚園，小学校とも減少している。

○ 「ぜん息」（表 8，図 8，図 9）

① 平成 24 年度の「ぜん息」の者の割合は，前年度と比較すると，中学校では増加しているが，幼稚園，小学校及び高等学校では減少している。

なお，昭和 42 年度以降，全ての学校段階において増加傾向となっている。

図 8 学校種別 ぜん息の者の推移

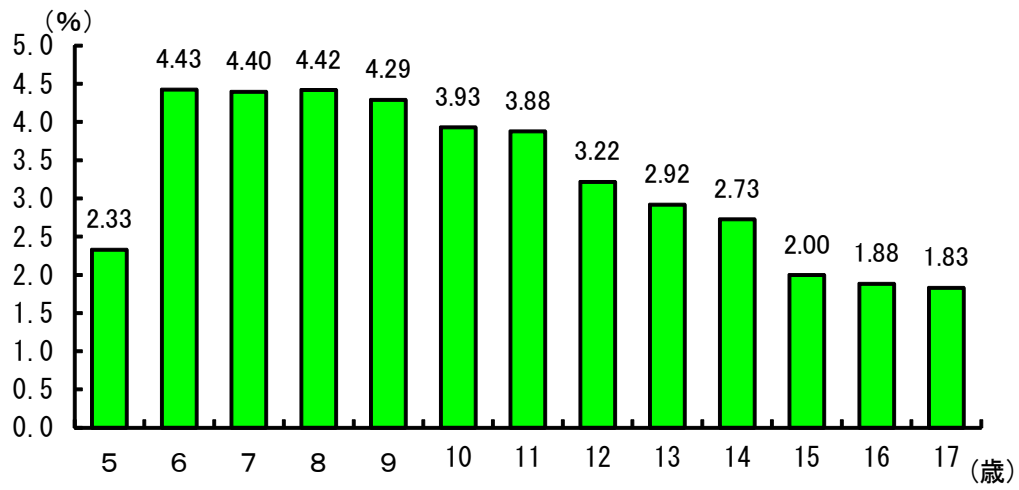


(注) 昭和 48 年度は，幼稚園（5 歳）については調査していない。

② 年齢別（図 9）にみると，6 歳から 12 歳の各年齢で 3% を超えており，6 歳が 4.43% と最も高くなっている。

なお，6 歳以降は年齢が進むにつれて減少している。

図 9 年齢別 ぜん息の者の割合



3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率（表13，図10，図11）

肥満傾向児の出現率は，男子は13歳以上の各年齢で，女子は5歳及び14歳で前年度より減少している。また，男子，女子共に，算出方法を変更した平成18年度以降は，減少傾向となっている。

なお，算出方法を変更する前は，昭和52年度以降，増加傾向であったが，平成15年度あたりから減少傾向となっている。

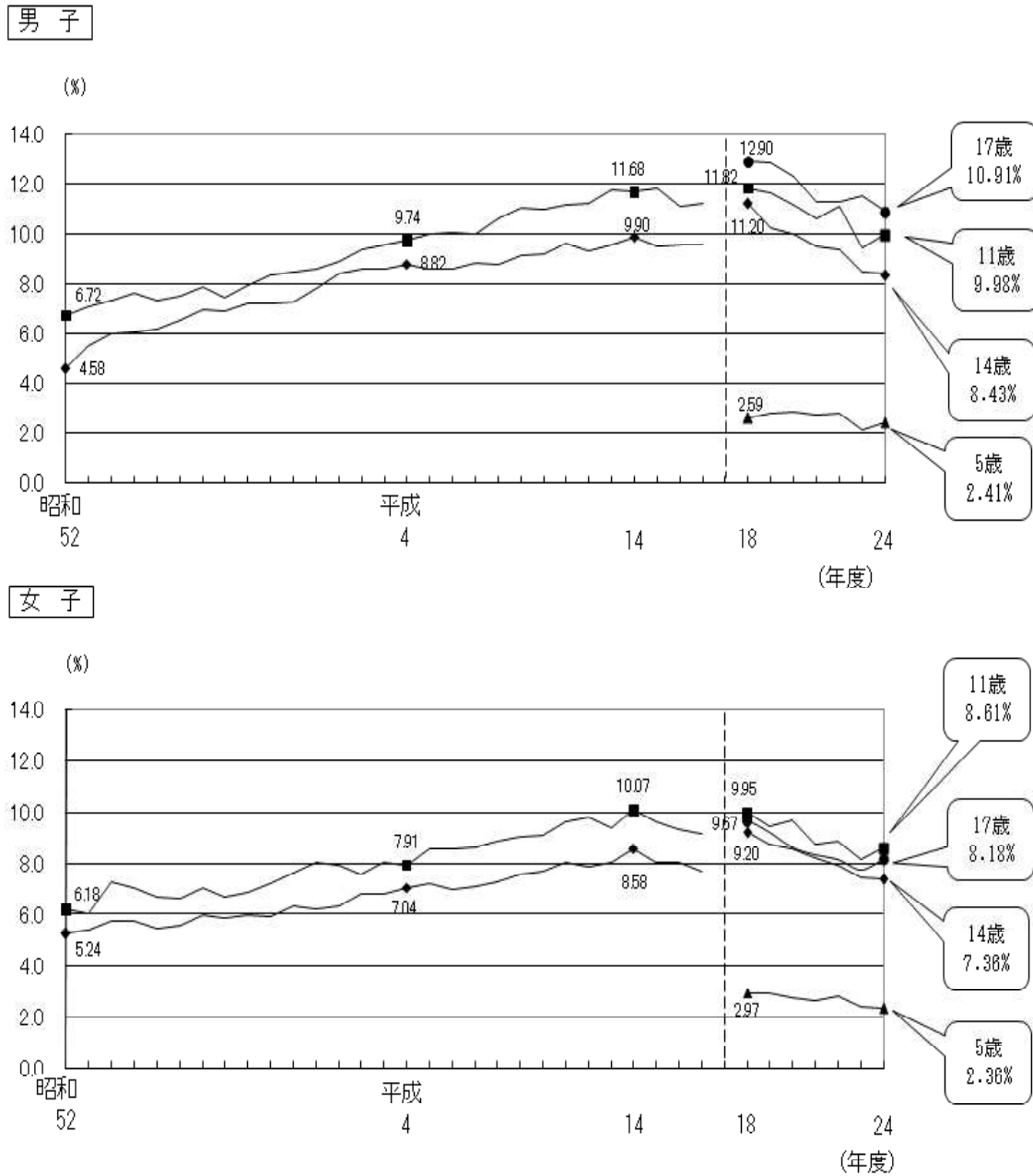
痩身傾向児の出現率は，前年度と比較すると，男子は5歳，11歳，13歳，14歳，16歳及び17歳で，女子は7歳，8歳，11歳及び14歳で増加している。また，男子，女子共に，算出方法を変更した平成18年度以降は，概ね増加傾向となっている。

なお，算出方法を変更する前は，昭和52年度以降，増加傾向であったが，平成15年度あたりから減少傾向となっている。

表13 年齢別 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

区 分	男		女		
	肥満傾向児	痩身傾向児	肥満傾向児	痩身傾向児	
幼稚園	5 歳	2.41	0.36	2.36	0.35
小 学 校	6 歳	4.09	0.27	4.37	0.57
	7	5.58	0.49	5.23	0.60
	8	7.13	1.06	6.09	1.16
	9	9.24	1.44	7.23	1.85
	10	9.86	2.49	7.73	2.61
中 学 校	11	9.98	3.38	8.61	3.12
	12 歳	10.67	2.40	8.64	4.18
	13	8.96	1.66	7.90	3.64
高 等 学 校	14	8.43	1.79	7.36	3.22
	15 歳	11.41	2.35	8.51	2.43
	16	10.25	1.89	7.74	2.12
	17	10.91	1.64	8.18	1.85

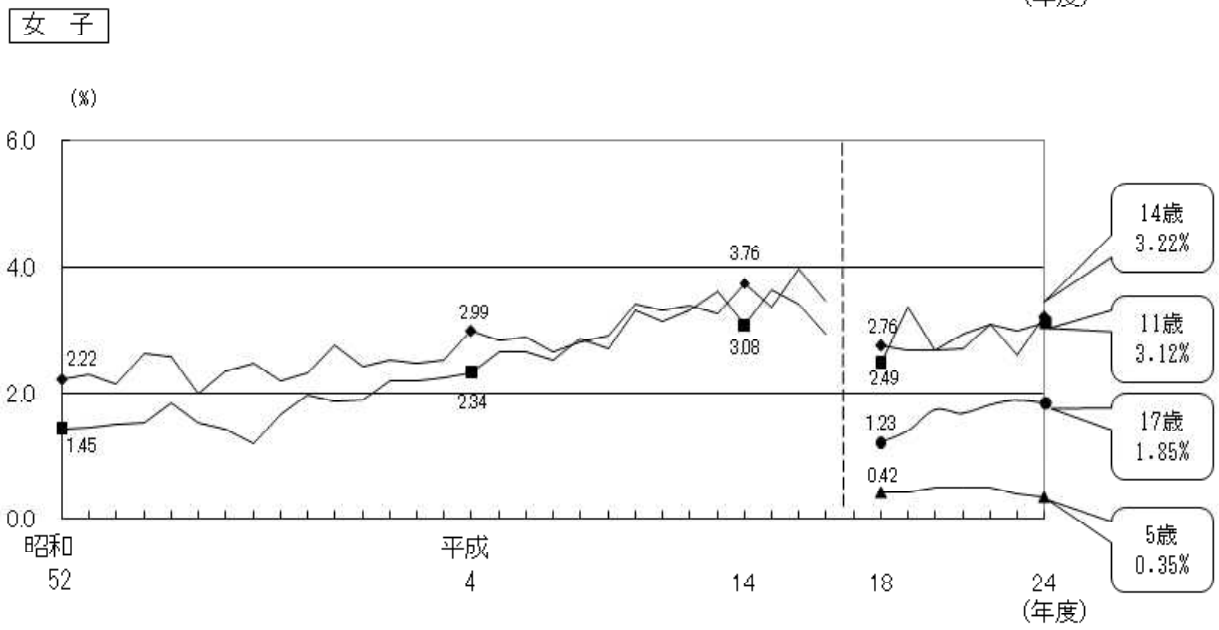
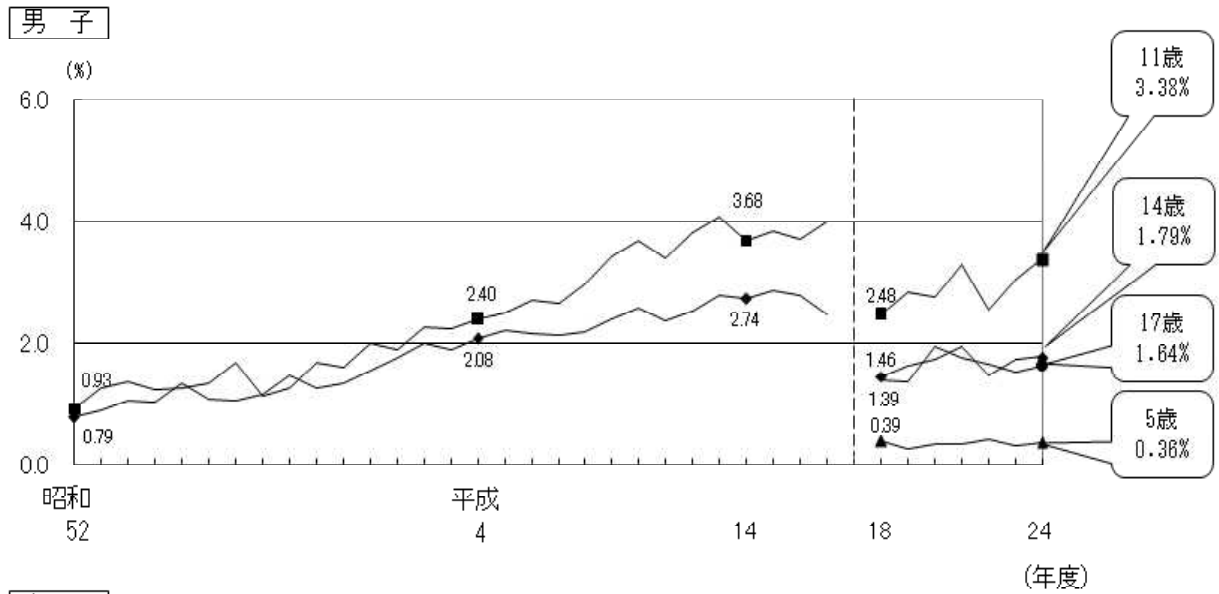
図10 肥満傾向児の出現率の推移



(注) 1 平成18年度から肥満傾向児の算出方法を変更しているため、平成17年度までの数値と単純な比較はできない。

2 5歳及び17歳は平成18年度から調査している。以下の表において同じ。

図11 痩身傾向児の出現率の推移



肥満・痩身傾向児については、平成17年度まで、性別・年齢別に身長別平均体重を求め、その平均体重の120%以上の体重の者を肥満傾向児、80%以下の者を痩身傾向児としていたが、18年度から、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

肥満度の求め方は以下のとおりである。

肥満度（過体重度）

$$= [\text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)}] / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

※ 身長別標準体重 (kg) = a × 実測身長 (cm) - b

年齢	係数		男		女	
	a	b	a	b	a	b
5	0.386	23.699	0.377	22.750		
6	0.461	32.382	0.458	32.079		
7	0.513	38.878	0.508	38.367		
8	0.592	48.804	0.561	45.006		
9	0.687	61.390	0.652	56.992		
10	0.752	70.461	0.730	68.091		
11	0.782	75.106	0.803	78.846		
12	0.783	75.642	0.796	76.934		
13	0.815	81.348	0.655	54.234		
14	0.832	83.695	0.594	43.264		
15	0.766	70.989	0.560	37.002		
16	0.656	51.822	0.578	39.057		
17	0.672	53.642	0.598	42.339		

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）』平成18年

*（参考）平成24年度調査の平均身長の場合の標準体重

年齢	男			女		
	平均身長 (cm)	平均身長時の標準体重(kg)	平均体重 (kg)	平均身長 (cm)	平均身長時の標準体重(kg)	平均体重 (kg)
5	110.5	19.0	18.9	109.5	18.5	18.5
6	116.5	21.3	21.3	115.6	20.9	20.9
7	122.4	23.9	24.0	121.6	23.4	23.5
8	128.2	27.1	27.1	127.4	26.5	26.3
9	133.6	30.4	30.5	133.4	30.0	29.9
10	138.9	34.0	34.0	140.1	34.2	34.0
11	145.0	38.3	38.2	146.7	39.0	38.9
12	152.4	43.7	44.0	151.9	44.0	43.7
13	159.5	48.6	49.0	155.0	47.3	47.4
14	165.1	53.7	54.2	156.5	49.7	49.9
15	168.4	58.0	59.2	157.2	51.0	51.6
16	169.8	59.6	61.1	157.6	52.0	52.5
17	170.7	61.1	62.9	158.0	52.1	52.9